

28年3月分 素材生産業者の活動・先行き動向調査

1. 調査実施期間 平成28年3月1日～ 28年3月10日

2. 調査実施方法

全国の素材生産業者に対し、アンケート調査票を送受することにより実施した。
3月分の回答企業数は8社である。

3. 判断指数の算出方法

各調査項目について以下の方法でウェイト・ディフュージョン・インデックスを算出した。

Weight.D.I.(ウェイト・ディフュージョン・インデックス)={「増加」の評価を行った回答の割合}×2+{「やや増加」の評価を行った回答の割合}-{「減少」の評価を行った回答の割合}×2-{「やや減少」の評価を行った回答の割合}÷2
したがって、この割合がゼロの場合はその増加と減少が等しいことを示し、プラスになるほど増加が多く、逆にマイナスになるほど減少が多いことを示す。

4. 調査結果の概要

素材生産動向

品目		28/3月	4月	5月
伐採動向	スギ	△ 20.0	△ 40.0	0.0
	ヒノキ	0.0	△ 33.3	△ 16.7
	カラマツ	0.0	0.0	0.0
	エゾ・トド	△ 33.3	△ 33.3	△ 33.3
出荷・販売動向	スギ	△ 40.0	△ 40.0	0.0
	ヒノキ	0.0	△ 16.7	△ 16.7
	カラマツ	0.0	△ 25.0	△ 25.0
	エゾ・トド	0.0	△ 33.3	△ 50.0
手持立木在庫動向	スギ	△ 30.0	△ 20.0	20.0
	ヒノキ	0.0	0.0	0.0
	カラマツ	△ 25.0	△ 25.0	△ 25.0
	エゾ・トド	△ 50.0	△ 50.0	△ 50.0

・スギの伐採は3月、4月の減少が、5月は横ばい。ヒノキは3月の横ばいが、4月、5月は減少。カラマツは3ヵ月連続して横ばい。エゾ・トドは3ヵ月連続して減少。

・スギの出荷は3月、4月の減少が、5月は横ばい。ヒノキは3月の横ばいが、4月、5月は減少。カラマツ及びエゾ・トドは3月の横ばいが、4月、5月は減少。

・スギの立木在庫は3月、4月の減少が、5月は増加。ヒノキは3ヵ月連続して横ばい。カラマツ及びエゾ・トドは3ヵ月連続して減少。

モニターからのコメント

(伐採動向)

- ・トドマツの間伐は融雪期に若干の仕事の遅れは見込まれるが、伐採動向としては横ばい（北海道）。
- ・森林組合の委託作業中心（中国）。

(出材・販売動向)

- ・トドマツ間伐材は横ばいである。融雪期の林道通行不可で翌々月の出材がやや減少すると思われる。運材トラックの絶対数が減っているので、トラック配車が出来ることが勝負（北海道）。
- ・3月、4月に急な造林事業に着手するため、生産が落ち込む見通し（九州）。

(手持ち立木在庫)

- ・立木在庫は伐採に伴い減少してきている。国有林の立木公売で適宜補充する予定（北海道）。